

授業改善のための10のチェックリスト

目標と指導と評価の一体化を目指して

目標

ねらいを明確にした分かる授業

- 子どもの学習状況等を的確に把握し、単元や領域で身に付けさせたい学力や授業のねらいを明確にして分かりやすく提示している。
- 子どもの思考の流れに沿った単元構成を考え、単元や領域の指導計画や評価計画を立案している。
- 体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができるよう、授業をデザインしている。

指導

子ども主体の考える授業

- 子どもの思考の流れが見える構造的な板書、子どもの思考を促す適切な発問や指示を行っている。
- 子どもの思いや考えを引き出すために、学習状況等に応じて臨機応変に対応している。
- 子どもの考えが深まるよう、「聞いて考える力」や「書いて考える力」の育成に重点を置いている。
- 学習活動と関連した掲示を行ったり、ICTを効果的に活用したりするなど、ねらいに沿った学習環境を整備している。

評価

確かな見取りによる伸びる授業

- ねらいと連動した評価問題を計画的に実施し、学力の定着状況の見届けを必ず行っている。
- 評価結果を生かして、授業中や授業後に個に応じた指導や支援を適切に行っている。
- 主体的に学ぶ態度を育成するために、学習課題を工夫し、保護者と連携しながら家庭学習の充実に努めている。